

隆  
之  
解  
乙

23

特34

844

く	た	の	う	む	お	こ
廿	廿	二	十	七	五	一
六	一	十	五	四	丁	丁
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁

ま  
廿  
一  
丁

や  
廿  
九  
丁

館籍書會台本口大			
四	二	一	五
冊	號	架	函
			類

雅言解卷之三

東京 鈴木重嶺纂

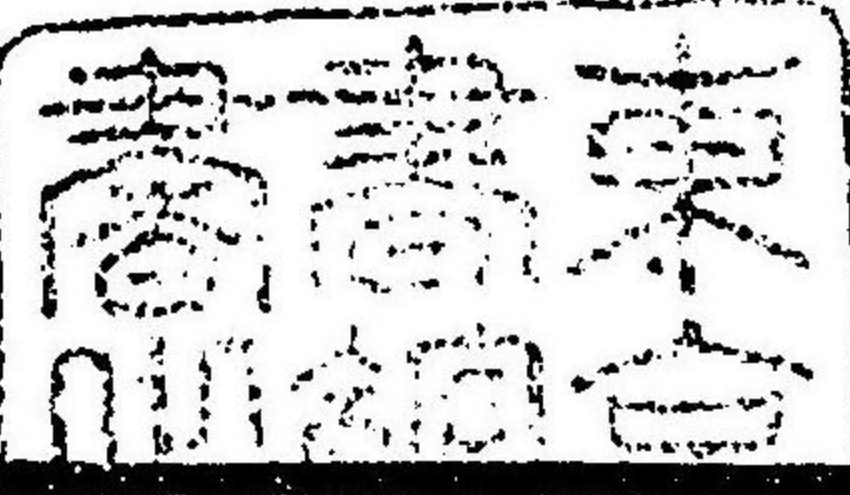
都の部

出兼 たひあちやぼをうらふとふなむつがひのふまふとち  
夫 つぼむらうちまふよふのなまふに指ふおめてきふまふ  
古 つゆゆーのねゆのふあふのかあふのか  
古 うらやうらやうらやうらやうらやうらやうらやうらやうらやうら

つぼむ  
 ○ 答ム之古ハゴノムト  
 云後ニハ今ノ如クツ  
 山ト云ヘリ

朝ナリ。早朝ヲ

○ 〇  
 〇 〇  
 〇 〇  
 〇 〇  
 〇 〇



ニナリ此義ヨリミヤ  
古(土産ノ意ニ変リタ  
ルナリ山ヅト濱ヅト家ヅトナド云ハリ。

つと

○菟直(ワラヅ)ニナリ  
今ツト入リフキノタフノトナド云フニ同シカレイヒノツトハニマウノツトナリ。

つよむ

○セイダス  
○ホネラル

井ガ  
〜山井の清水もびり〜

万  
〜身も〜

河  
〜の〜

つぢム

○集又ハ漢ヲ訓ムアツ  
マルナリ古事記ニ神  
鳥集而トアリ。

百解  
〜きの大ま〜

万  
〜の〜

つちくれ

○塊(ツチ)ノカタマシナ

冷きぎ  
かり〜枝〜

リ

つるまき

○鶴脛ニ裾ヲマクリテ  
カチ渡リスルサマヲ云。

冷きぎ  
かき川を〜

つるまきの衣

○ツルバシハ襟ヲモギ  
ナリ其笑ヲ襟斗下  
グリト云其形ヲ襟草  
ニ用ウ令義解ニ襟ノ  
黒衣トアルハツルバシ襟ノ衣ナリ。

万  
〜の〜

万  
〜の〜

つらのみ

○石葉ニ刺ノ間トアリ  
テ暫時ヲ云ハリトキ  
ノマツエノマナド云  
フニ同シ。

万  
〜の〜

令  
〜の〜

つらのあひだ

○前ニ同シ。

万  
〜の〜

万  
〜の〜

つがぬ  
○末ヲ新ム俗ニヤッネ  
ト云ハリ

つがひ  
○番ヲ訓ム射角カナ  
ドニ一ツガヒト云ヒ  
鳥ニモニ羽ヲ一番  
云ハリ

つがサ  
○山ノツカサ野ツカサ  
岸ノツカサナドニトサラ高キ所ヲ云ツカサ人市ノツカサナド云フモ上ノ意ニモトツケルナルシ

つれあし  
○情ナシ

つれあし  
○ツラノカハアツシ  
○真名伊勢物語ニ強齋  
ツレアシトヨメリ

古  
つがぬ

千  
つがひ

伊勢  
つがサ

方  
つがサ

伊勢  
つれあし

伊勢  
つれあし

つれあし  
○前ニ回

つれあし  
○徒然ト書クヒトリニ  
テサビシク思フ意ナ  
リ○何モスルナク  
シテサビシキナリ

つがサ  
○ウチトケカヌル意

つがサ  
○ツノミタイカクシタイハツカサニト云ガサツ  
○ツガナシ

古  
つれあし

千  
つがひ

伊勢  
つがサ

方  
つがサ

伊勢  
つれあし

伊勢  
つれあし

ついでとく  
○前二同

つら  
○濕草ナリ馬鞭草和名  
久赤豆々民

つび  
○鼓ヲ訓ム今云大鼓モ  
亦ツバミナリ

つらざ  
○九折ヲ訓ム葛ノ蔓ヲ  
折返シメ曲ゲタル

つら  
○ツラホレノ義ナリ常  
ニ熟ノ字ヲアテ用ユ

ついでとく

つら

つび

つらざ

つら

つら

如キ形ノ路ヲ云山ノ嶮曲ナレ坂ニ多ク云ノリ

つらづ  
○今ホ、ジエ類杖ト云

つら

○ソチハハコホリト云  
フニ同シ新瑞穂ナド  
ヨリ垂ルノ水ヲノミ  
云フニマラズなヨリノ條ヲ見合ヌミ

つむ  
○身ヲ擗ヒシ

つめむ

○若ニオホクヨメリ船  
ノメグム如キ形ヲモ  
テ云フナリ

つらづ

つら

つむ

つめむ

つむ

つめむ

つめむ

つめむ



ねぢけ人  
○ 倭人ノコナリ

ねがはくハ  
○ 額ハクノハクノ綴  
ワナリ。額フノワラ延  
バタレナリ。

ねよとの鐘  
○ 亥ノ時(マツル)ノ今ノ  
十時ニ當ルノ鐘ヲ云。  
天武紀ニ人定鐘ト見  
ユ人々ノホシヅマル  
頃、鐘ナレバナリ。

ねいし  
○ 嫉ノ字ヲ訓ム。ウラヤ  
△ 意ノヤシキ意。又ニ  
クム意ヲモオブ。

禰の部

ねいし

ねがはくハ

ねよとの鐘

ねいし

ねいし

ね  
○ 仰スル詞ナリ。アノセ  
曰。カウマヨト云フヨ  
ニ同シ。

ねぐ  
○ 祈ルナリ。按スルニネ  
ガフノ約ナランガフノ約  
ナリ。

ねくぬれガ  
○ 禰乱レ髪ナリ  
○ 藤沢ノ池ニ衆如ノ身  
ヲナゲシ。故事ハ大和  
物語ニクハシ。

ねこじ  
○ 根グルメ拔キ取ナリ。  
古事記ニ根コビニネ  
コジトアリ。今体ニ

ねいし

ねがはくハ

ねよとの鐘

ねいし

ねいし

根コギト云々

ねごめ  
○根クルメナリ。根ト共ニノ意

ねてのあさけ  
○寐テノ其翌朝ノ明ケ方ナリ

ねざめ

○イネテ後目サメテ寐ラレヌヲイフ。目覚メトハ別ナリ。故ニ寐匠家ニテ初老後ナラデハヨマセヌヨシ。若キ人ハ寐覚ヲ知ラネバナルベシ。尤ノオキテナリ。

なごめ  
○曙ヲヨム。麗手ノ義直ナル道ヲ云。今モナホナハテ道トイフナリ。

ねごめ

ねてのあさけ

ねざめ

なごめ

奈の部

なごめ

なごめ  
○名ニ貢フノ意。シハ助語ニ必バト受ル格ニ各ニシオフトヨメルハ非ナリ。

なごめ  
○難波女ナリ。万葉ニ難波男モ見エタリ。

なごめ  
○何事モオモハズナリ

なごめ

○ナニカ  
○難波(ナニ)ニ通ハセテ云ナリ

なごめ

なごめ

なごめ

なごめ

なごめ

なごめ



おほ、  
ナニシニノ書

おほいなる書にあらはしむる事ありて  
なほ

おほいなり  
ナニホドモ

おほいなる事ありて  
おほいなる事ありて

おほいなり  
ナニデモナイ

おほいなる事ありて  
おほいなる事ありて

ナニホドノフガアラ  
ワヅ

おほいなる事ありて  
おほいなる事ありて

おほいなり  
ドノヤウナ心地

おほいなる事ありて  
おほいなる事ありて

おほいなり  
ナンノヤクニタツ  
ツカざし抄ニナン  
ヤイフテミヤレト  
セリ

おほいなる事ありて  
おほいなる事ありて

おほいなり  
ナゼ

おほいなる事ありて  
おほいなる事ありて

ナニユエ

おほいなる事ありて  
おほいなる事ありて

おほいなり  
ナンデ此ヤウ

おほいなる事ありて  
おほいなる事ありて

ナンデマア

おほいなる事ありて  
おほいなる事ありて

おほいなり  
ナニ、セウゾ

おほいなる事ありて  
おほいなる事ありて

おほ  
 ヤハリ  
 中世以後ハ、今云猶々  
 ノ意ニロメルモアリ

おほ

タツ一通リ

物語ブミニ父ハナホ人ニテ母ナン藤原ニケルトアリナホ人ハタマ一ト通リノ人ト云フ義

おほざり

等閑ヲ辨ム、今云ニ同

シ

おほき

スナホク直キラスグ

ト云フハワロシ。○此歌ニモヲ吹キ舞ライフトハ、サノイノコマヂセンサクシテ、トカメダテスルトノ意ナリ。前漢景十三王傳ニ有司吹毛求疵云々ト見エタリ。

おほて

皆コトゾトク

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

ッスベテ

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

おほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほきおほき

ナゼ  
ある

ナゼある  
ある

産葉ナリ  
云ニ同シ

産葉ナリ  
云ニ同シ

前ニオナシ

前ニオナシ

成靴ヲ云

成靴ヲ云

実ノ器  
ボヲ俗ニナル

実ノ器  
ボヲ俗ニナル

ト云ヘリ  
前ノナルヲ  
兼タリ

ト云ヘリ  
前ノナルヲ  
兼タリ

鳴子ハ田畑ノ為ヲ追  
フ具ナリ  
古クハ引板

鳴子ハ田畑ノ為ヲ追  
フ具ナリ  
古クハ引板

我ト他トノ間ヲサク  
辨ナリ

我ト他トノ間ヲサク  
辨ナリ

ナガシメ人  
心ニウレ  
ハ樂シカラズ  
思フト  
キ見ルト  
モナク  
ジツ  
トナガム  
ルヲ云  
見ル  
トニ云  
ハ非ナリ

ナガシメ人  
心ニウレ  
ハ樂シカラズ  
思フト  
キ見ルト  
モナク  
ジツ  
トナガム  
ルヲ云  
見ル  
トニ云  
ハ非ナリ

遠クヲ打望ム  
コヲ云

遠クヲ打望ム  
コヲ云

見ルトハ異リ。

○心ガクウ(空)

○ウチヤウテニ有頂天

○中天ニカケテモ云ヒ  
又一ノ詞トヒテモ云ヒ

○半ナリ物語ブミニナ

カラトモ云

○流ルルナガラフト云

心ヲ兼ヌナガルヲ延  
レバナガラフナリ。ラ  
フノ説ル云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

○カハツテ

○ナマシヒニ

○歌ニヨリテ。釋シカ一  
様ナラズ。

○決ナリ

○決ナリ

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

ナガラフハ永登ナカ  
世ノ中ニアリフル  
云

○ ナンデ  
○ ナンノコヤ

○ 比ヲ訓ムナゾラフニ  
ナヅヘナクトハ引リ  
ラベガタクニ

○ 摩觸ノ馴ルノ意  
ツサハマクハナデサ  
ハリニシトナリ

ナニノコヤ

ナンデ

比ヲ訓ムナゾラフニ

ナヅヘナクトハ引リ

ラベガタクニ

摩觸ノ馴ルノ意  
ツサハマクハナデサ  
ハリニシトナリ

○ 勿ナリ今俗言ニモ何  
ミスケト云ヘリ即チ  
此ケン  
○ 此ケモ勿ナリハ咲ッ  
ハ咲クハト云フニソ  
ヲ濁ルハワロシ  
○ ナコソノセキ勿未開  
ハ古陸奥國新田郡ニアリ常陸トノ界ナリ  
○ ナラハシガ  
○ ナラハシハ慣習ナリ  
○ 慈ヲ訓ム今云ナマジ

勿ナリ今俗言ニモ何

ミスケト云ヘリ即チ

此ケン

此ケモ勿ナリハ咲ッ

ハ咲クハト云フニソ

ヲ濁ルハワロシ  
ナコソノセキ勿未開  
ハ古陸奥國新田郡ニアリ常陸トノ界ナリ  
ナラハシガ  
ナラハシハ慣習ナリ  
慈ヲ訓ム今云ナマジ

此ニ同シ。士清云生強  
(ナマジヒ)ノ義ナルベ  
シト。

○イヤラシイ  
○イロケタツプリ

○ナサソウナ  
○物語フミニ、ナゲノコ  
トバナゲノアハレナ  
ド云フハ、眞実ノ心ナ  
ラヌカリソメ言ト開  
ユ、ナゲノハ無ナリ。

○波ノ黒ミテ高クタツ  
ナリ、今モ舟人ハナゲ  
ラト云ヨシ。

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

○荒ブル神ナゴメント  
テノ被々(ナゴメン)ハ  
冠メンニ一説ニ夏越  
トカキ六月ノ被ヲ云

○ナゴリハ餘波ノ字ア  
タレリ。打ヨセシ波ノ  
退キ残りタルヲ云。俗  
ニ名ゴリ惜シナド云  
フトハ甚違ヘリ。新古  
今以後ニハ、今云俗語  
ノ名残りニ似タルモアレ  
レ例トス。カラス、六帖ニモ一  
首似タルアリ。

○和ダノ意ナリ。朝ナギ  
タナギナド云ヘリ

○ヒトノホリニ

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

○ナミハ波ヲ縁ヌ

まじ

○居ラヌ  
○ルスガナ

○あす  
○鳴スノ略ト

むつご

○向ノ峰ヲ云フハツノ  
ハノヲニ同シ峰ナリ

み *mi*

ま *ma*

ま *ma*

ま *ma*

武の部

か *ka*

か *ka*

○むつれ  
○睦ミ親シムノ義ト

むつご

○睦言ナリオモニ男女  
ノ間ノ親ミノ語ヲ云

○かつごたり  
○シタシミノ物語ナリ

むつき

○襦袢ヲムツキトヨマ  
セタリミドリコノ衣  
ヲ云コノ歌ニテハ皆  
睦月(ムツキ)ヲ兼テヨ

か *ka*

か *ka*

か *ka*

か *ka*

か *ka*

か *ka*

メリ

むづろ  
ワヅラハシ  
カラマリ合フノ意

むおぐま  
空車ナルベシ

むあー

クウ空  
何モナイ  
春の花ノ歌ハ色即是  
空ヲヨメリ

むらさねのな  
禁庭ヲ云

むらぎ  
スナドリ人ノ和名抄  
ニ漁夫和名無良岐美ト見ユ

わづらわし  
かしまりあひあはれ  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

むおぐま  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

むあー  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

クウ空  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

むらさねのな  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

むらぎ  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

むやい

舟ヲツナジ綱ナリ俗  
ニモヤヒト云ヘリ

むせが

喫咽ヲヨム俗ニムセ  
ルト云

むさぶの神

高産靈(タカミムスビ  
ノカミ)神皇産(カミ)  
ムスビノカミノニ神  
ヲ云

むさぶの

結ブヲ延ダタルナリ  
ムスボノレハムスバ  
ルト

むやい  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

むせが  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

むさぶの神  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

むさぶの  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

むさぶの  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

むさぶの  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ



宇の部

ういのもち

○心ガクウニナル。

○ウチヤウテン(有頂天)

ひささきういのもち  
ういのもち

うべ

○宜ヲヨム

○ナルホド

○モツトモヂヤ

○道理ガヤ

万 せいせいのうべ  
万 せいせいのうべ  
万 せいせいのうべ  
万 せいせいのうべ

うちつけふ

○サシサダメテ

○チカアテニ

法 うちつけふ  
法 うちつけふ  
法 うちつけふ  
法 うちつけふ

うちさへ

○打延百千ハハナリ

○ヒキツビイテ

法 うちさへ  
法 うちさへ  
法 うちさへ  
法 うちさへ

うちはー

○ウツリ橋ヲツメメタルナリ

万 うちの川  
万 うちの川  
万 うちの川  
万 うちの川

うぶま

○琉球國ヲ云ヨシモノ

○見ユレド非ナリ公

○陵島ヲ云ヨシ本朝

○ワヅラハシ

○メンゲウ

○メンゲウ

○メンゲウ

○メンゲウ

○和名抄ニ抹雨ヲ宇太

千 うちま  
千 うちま  
千 うちま  
千 うちま

山川の原  
山川の原  
山川の原  
山川の原

加太トヨミ。潦上ニ雨フリテ沫ノ起ル覆盆ノ如シトアリテ水上ニ浮ブ泡ヲ云ナリ。

うたうい

千ヨツトノ間

○ニハタツミ水ノアワ  
ナドニヨセテヨメリ

うたうい

○歌ニヨリテハバカナ  
イ定メガタイトモ譯  
スバシ

うたうい

○轉寐ナルベシ。仮リ寐  
ヲ云。今云フニ同シ

うれ

○上ナリ。ウレノルハハ  
ニ通ス

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

うれハキ  
○フベキ

うつた

○かぎ一妙ニハ。マンガ  
ハ。又理窟ニハツレテ  
ト沢シ和訓聚ニハ。美  
妙ノ幾ナリトアリテ  
此説ニ從フベキ歟

うつた

○誠心ナリ。本心ト云フ  
ニ同シ。ウツリヤスキ  
心ニヨメルハ後世ノ

○空賤ハ身ノナキ見  
ウツセツヒ

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

うさみ  
○髪髪ヲ朝ふ。童児ノサ  
ゲザイナリ。

うさるむさり  
○童ノ髪長カラヌヲ。ユ  
ハズシテ。ウナジ(項)ア  
タリニテ。放チ置クヲ云ヘリ。

うらぶれ  
○シホミトシテ。心面  
白クナキ様ナリ

うらうふー  
○何トナクカナシキニ  
ウラハ心ナリ。ウラメ  
ヅラシナド云ウラハ  
皆同シ。

おんたしきんていさつ 万長  
おんたしきんていさつ 万長  
おんたしきんていさつ 万長

うらぶれのそりきん 万  
うらぶれのそりきん 万  
うらぶれのそりきん 万

川のはらみ 万  
川のはらみ 万  
川のはらみ 万

おんたしきんていさつ 万長  
おんたしきんていさつ 万長  
おんたしきんていさつ 万長

うの花くたー  
○クタシハ隣ラスニ。隣  
雨ニ卵ノ花モクサラストノ意ナリ。

うまや  
○今ヤナリ。ウマヤクハ  
今ヤクナリ。コ、ニハ  
駅(ウマヤ)ヲカネテヨ  
メリ。

うまー  
○ケツコウナ  
○ホムル詞ナリ。味ノウマ  
キモ事物ノヨキヲホムル  
ウマシメ元ト一ツ意ナリ。  
うま人  
○ウマシ人トモ云貴人  
ヲ云ヘリ。

うがい  
○神ニ祈念スルナリ。伊

おんたしきんていさつ 万長  
おんたしきんていさつ 万長  
おんたしきんていさつ 万長

植物語ノウゲヘハ紐

伊物 *Imogoto*

ウタレナリタレノ約

六 *Utarenari-tare no yakoku*

シマツ

海松和名美流海藻

土佐 *Simatsu*

シマツヤサ

シマツヤサ

ウシロメダシノ死對

古 *Simatsuyasa*  
後 *Ushiromedashi no shi tai*

ウシロガミラル  
コ、ロモトナイ  
ケンノンヂヤ

女 *Ushirogamiraru*  
女 *Komononchiya*

初ヲ訓ハ元服ヲウヒ  
カウブリト云ウヒハ  
ハジメニ同シ

初 *Hajimete ni douji*

ウスクナル又ウスレ  
ウスルハトモハタラ

夫 *Utsukunaru mata usure*  
夫 *Utsuru wa tomo hataraku*

ウチヨサ  
ミヤミヤコ

万 *Uchiyosa*  
万 *Miyamiyako*

冠辞の部

○ウツクシキ日ノサス  
宮トツケシナリ

ウツクシキ日ノサス  
宮トツケシナリ

うちなびく

ワガ黒髪

春サリクレハ

春ノヤナギ

○ナビク物ニ冠ラセタリ

うちのぼる

佐保ノカハラ

○山川ニソヒテノボリ  
行ク道ナレバ云ナラン

うちわらす

竹田ノハラ

ヲチカタビト

○長ク遠キ意ニテ冠ラ  
セタルナリ

うちわらす

スルガ

うちわらす  
スルガ

○打漕ル漕ル髪ト云フ  
意髪ヲクレケツル時用ル水ヲニスルトイハナリ

うらせ

世イノチ人

○ウツヤミハ現衆ナリ  
現ノ身ノ命世又人ト  
ツバケシナリ

うらせ  
世イノチ人  
ウツヤミハ現衆ナリ  
現ノ身ノ命世又人ト  
ツバケシナリ

乃の部

○野ノ中ノ高キ所ヲイ  
フ

のつみき

○野ノ中ニアル清水ヲ  
云歌林良材ニ掃磨ノ  
印南野ニアリトアレ  
氏此説如何アラン

のつみき  
野ノ中ニアル清水ヲ  
云歌林良材ニ掃磨ノ  
印南野ニアリトアレ  
氏此説如何アラン



○ボンヤリ  
○彷彿ツレカアラスカ  
ノ意

○オボツカナキ意

○荊棘ノシゲレル道ヲ  
オドロノ道トイヘド  
夫ニモ限ラズ草ノ深  
クオヒシゲル路ヲモ  
云メリ、

○今云鳴子ナリ、又引板  
トモ云、

わが...  
おのれ...

わが...  
おのれ...

わが...  
おのれ...

わが...  
おのれ...

○高麗又蛇籠ヲオガミ  
トヨム雨雪ヲ司ル龍  
神ナリ、

○およづれど  
正シカラ又部ナリ、万  
葉ニ遊詩ト書ケリ、

○おぞ  
愚ヲ訓ムオロカニオ  
ナシ、

○おのれ  
巴ナリ、ミヅカラジブ  
ニ又時ニヨリ汝ノ意  
ニモナルナリ、

○おのろ  
オノレノレヲハツキ

わが...  
おのれ...

タルニ

○おのぢぢ  
○オノレ、こが世ニナ  
ルヲ云、メイ、こ別レ  
こニナル、こ伊勢  
物語ニ、オノガ世、ニナリニケレバ、ウツクナリニケリト。此意。

○メイ、こが世ニ

○おのぢぢ  
○シゼント

○おのく  
○各ヲ訓ム

おのぢぢ  
おのぢぢ  
おのぢぢ

おのぢぢ  
おのぢぢ  
おのぢぢ

おのぢぢ  
おのぢぢ  
おのぢぢ

おのぢぢ  
おのぢぢ  
おのぢぢ

おのぢぢ  
おのぢぢ  
おのぢぢ

○メイ、  
○ソレ、

○おくらす  
後ラス、此歌ハ今互  
ニ別ルトモ、心ノウチ

○おくらす  
基ヲ云、今俗ニオキツ  
ケト云ヘリ。

○おふけあ  
無負氣ナリ、カニタヘ  
又重荷ヲ負フ意。

○おこす  
熾ヲ訓ム、火ヲ盛リニ  
スル、源氏まほろ

○おこす  
俗ニ云ヨロス

おくらす  
おくらす  
おくらす

おくらす  
おくらす  
おくらす

おくらす  
おくらす  
おくらす

おくらす  
おくらす  
おくらす

おくらす  
おくらす  
おくらす

おくらす  
おくらす  
おくらす



おま  
俗ニオナジ

おま  
和名抄ニ熾ハ於岐比  
猛火トアリ

おま  
オキナスサビニ老人  
ダテラト云フヲ  
サビナドモ云ヘリ  
千載集ノけきこれ

わが

おま

おま

おま  
古抄系

おま  
沖城系

おま

歌ノオキナサビハ古意ニ達ヘリ、若クダチ行ク意ト聞ユ

おけらく  
おいらく

御杖云オエラクノラ  
クハ見ラク恋ラクノ  
ラクニオナジ万葉ノ  
イヒザマハ正シ古今  
以下ハ体語ニシテヨ  
井ザル方ニセマホシ

お  
皆コトゾリク  
スベテ

お  
オシナビカシ  
万葉ニ揮筆トカケリ

お  
サウガヤト思フテ井

あえきや月日のあまのうらみ

まららるるあまのうらみ

まららるるあまのうらみ

まららるるあまのうらみ

まららるるあまのうらみ

まららるるあまのうらみ

まららるるあまのうらみ

まららるるあまのうらみ

まららるるあまのうらみ

まららるるあまのうらみ

まららるるあまのうらみ

ル故

神を月あはしき けむりたてしき けむりたてしき

おもひひがまなく  
オモヒゲマナクハ、鈴

おもひひがまなく けむりたてしき けむりたてしき

舍翁ハ思ヤリナキ意  
ト云ヒ、井上文雄ハ思  
ヲ残スクマモナキ意トセリ。歌ニヨリテ此意ニテモ聞ユルヤウナレド、猶前説ニ従フ方ナルベシ。

おもひひがまなく けむりたてしき けむりたてしき

おもひひがまなく  
思ヲ遺ルナリ

おもひひがまなく けむりたてしき けむりたてしき

おもひひがまなく

おもひひがまなく けむりたてしき けむりたてしき

古クハ思ヒヲ彼方ニ  
ヤルコトニノミ云ヘリ。  
中比ヨリハ今云櫻像  
ノ意ニモヨムナリ。

おもひひがまなく けむりたてしき けむりたてしき

おもひひがまなく

おもひひがまなく けむりたてしき けむりたてしき

歌林良材ニ草ノ名ニ  
アラズトアリ、京極黄  
門ハ龍騰ヲ云ト、オボ  
ツカナシ、實ハ定カナル証ナシ。

おもひひがまなく けむりたてしき けむりたてしき

おもひひがまなく

おもひひがまなく けむりたてしき けむりたてしき

面伏也、メンボクナイ  
ト云フコト、オモテオコ  
シノウラム。

おもひひがまなく けむりたてしき けむりたてしき

おもひひがまなく

おもひひがまなく けむりたてしき けむりたてしき

其コトヲ思ヒ思フテ  
寐ル。

おもひひがまなく けむりたてしき けむりたてしき

おもひひがまなく

おもひひがまなく けむりたてしき けむりたてしき

佛經ヨリ出タリ、火宅  
三車ヲヨメルコト、オモ  
ヒニ火ヲ兼ヌ。

おもひひがまなく けむりたてしき けむりたてしき

おひぎらひ  
○ヒトミシリ源氏若菜  
ノ巻ニ思ノオモギラヒセヌコチシテトコノ意ナ

おもひのハリせぬ  
○面変ナリ面ノオトロ  
ヘヌヲ云

おも  
○母ヲオモトイヘレド  
乳母ヲモ亦オモトイ  
ヘリチオモノ略ナリ

おひきみの  
ミカサ山

○大君ノ御蓋トツツケシニ蓋ハキヌカサム  
おひともの  
ミツノハマ

おひぎらひの源氏若菜の巻に思ふおもひのオモギラヒセヌコチシテトコノ意ナ

おもひのハリせぬの面変ナリ面ノオトロヘヌヲ云

おもひの母ヲオモトイヘレド乳母ヲモ亦オモトイヘリチオモノ略ナリ

冠辞之部

おひきみの御蓋トツツケシニ蓋ハキヌカサム

おひとものミツノハマ

○大伴ノミツシハシト云意ニテ大伴氏ノ祖道既ノ命使カナルマスタタケ賜ナレバミツシハシトホメタヘタルナリ委シキコハ冠辞考ヲ見テ知ルベシ

おほぬさの  
ヒクテアマタ

○川辺ニ大被スル時人ノ湊ヒテ大ナル幣ニ手ヲフレツ引テ被ノワサスルヲアダ人ノ引ク方多キニタトヘタルナリ

おいてるや  
ナニハ

○古クハオシテルト四言ニモヨメリオシテルノオシハオソヒニテハ立ルヲ省ケルニ委シクハ冠辞考ニ見ユ

おまつ波  
タカシノハマ

○浪ノ高シト云ヒカケタリ古今ノ長歌ニ沖津浪アレノミマサルトモヨメリ是ハ浪ノ荒レト云ヒカケシ

おほーまの  
ナル

○周防ノ海ニ大島ノ嘴門ト云所アリ故ニ大島ノ成ルト云ヒカケタルナリ

久の部

くろ  
田ノ畔人

くろの田ノ畔人の

くハ子  
○ 齒ヲ訓ムナリカヒコ  
ハ来ヲモテ養フニエ  
マユヲクハマユトモ云ヘリ

くハ子  
○ 蚕ノ衆ヲモテ育ツル  
ニエクハコトモ云ヘ  
リ

車をのくる齡  
○ 七十歳ヲ車ヲカクル  
ヨハヒト云漢ノ薛廣  
徳ガ故事ナリ

くたす  
○ 壽初スをノ部ノをの  
クエクたすノ條ヲ見  
ベシ

万  
~~~~~  
~~~~~

万  
~~~~~  
~~~~~

雨蓋  
~~~~~  
~~~~~

伊物  
~~~~~  
~~~~~

くだらけ  
○ サマト就アレド百濟  
難ノ義ナリト云ニ徒  
ラニシ今云タリマ  
ノコトトゾ

くれ  
○ 樽ノ訓ハ儀式帳ニ材  
ヲヨメリ士清云クル  
ハキハレ(水断)ノツッ  
マリタルニヤ歌ニハ  
暮ヲ樽ニカヨハスル  
多シ

くむ  
○ オレハカレナリ水ニ  
カケテヨム古クウム  
トヨメル歌ニ水ノ縁  
ナキハラサク見エズ

夫  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

そのまゝにて  
雲ノ旗手ナリ、夕暮ニ  
ハ色ノ雲ガ旗ノ如ク  
シナビクナリ。

くさつ

袖中抄ニ「草ニテ類  
ミタル袋ナリト云ヘリ、

古  
たぐいひのさしめりあはるる  
くさつ  
はるる

祝詞ニ「草ニテ類ニテ類  
此等云」トアリ、草ノ

花  
はるる

くさつ

万葉ニハ「草ノオコナ  
ヒトアリ、フルマヒモ  
同シ。

花  
はるる

くさつ  
草ノスカタヲ体悟

花  
はるる

ニテスガキト云ヘルニ、  
くすり子  
草

○茶中ニテ、元且屠蘇酒  
ヲ奉ルニ、マツ藜子ニ

飲マシム、藜子ハ未通少ナリ、用ウソハ小兒ヨリノムト云故事アレバ、

くすり日

○五月五日ヲ藜日ト云、  
推古紀ニ、五月五日菟  
田野ニ藜穢スト見エ  
タリ、此日藜草ヲ取ルナリ。

夫  
はるる

くす玉

○葉五ハ色ハモテ花ヲ  
ツクリ、其中ニ藜ライル、

夫  
はるる

冠絳の都

○冠絳ノ色トマデカケシナリ

古  
はるる

くれ竹の  
フシヨヒトヨ  
竹ノ縁ヲモテ冠ラセシノミ

くれさざり  
アヤアヤシク

呉ノ織物ノ綾ト云ヒカケタリ

くさきんら

草引結ビ枕トスル意  
ニテ旅ニ冠ラセタリ

谷ニ同シ

日数多キヲ云ノミ

くさきんら

くれさざり

呉ノ織物ノ綾ト云ヒカケタリ

世の部

草引結ビ枕トスル意

ニテ旅ニ冠ラセタリ

谷ニ同シ

家野ナリ宿ト混スベ  
カラズ

庭ナドへ水ヲ引入レ  
テ流シヤルヲ云

遣ルニ今云フニ同シ

破ルナリ

家野ナリ宿ト混スベ

カラズ

庭ナドへ水ヲ引入レ

テ流シヤルヲ云

遣ルニ今云フニ同シ

破ルナリ

○其マ、スグニトリモ  
ナホサズナド、其歌ノ  
カ、リニヨリテ訳シ  
方ニタガヒアリ。

○ヤツテ  
○ミスボラシクスナリ、  
折ヤツスハ、ヲリハラスノ意

○前ノ記ニ同シ、自他ノ  
違アルノミ

○何モ得為ズニ  
○コハ行マキラニカズ  
咲ベキヲサカヌ意ナ  
リ、ユカデサカデト云

はは  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

ベキ所ニ文字タラネバ、トテ、ヤラデト云ハル、詞ヲ用ルハ非ナリ、

○やまびこ  
○僧ノコナリ

○やまびこ  
○山彦トカク、山響ノコ  
ナリ、俗ニコダマト云  
へリ、

○やまびこ  
○頸廻ノ注ニ、山卧ナド  
ノ山ヲ分ケ行ク衣ヲ  
イフトアレド、旅人ニ  
モ云ベシ

○やまびこ  
○山ニカタヨルナリ  
○万葉ニ海カタツキテ  
谷カタツキテトモヨ  
メリ、

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

冠辞の部

やくもちり

イヅモ

○イヅモハ出ル雲ト云 語ナレバイヤ雲タツトコトバヲ重ネ冠ラセ玉ヒシナリ、

やまのみの

アサキ

○山ノ井ハ海キモノナレバ淡シト云フニ冠ラセタリ、

あまたちの

トコトナシノ関

○又ノ綴ヲ人ノ心ノ綴ニ云ヒカケシナリ、

やすしき

ワガオホキミ

○八隅マデ残ナク知シメス 天鼓ト申スナリト 誰モ思ヘド、縣居翁ハ安ラケクミソナハシ知ロシ召シ五ノト云意ナリト云ヘリ、

山すげの

ミナラヌ

○マコトナラヌヲ、実ナラヌト云テ、山菅ノ実ナラヌトハ云カケシナリ、

古事記 古今  
あまたちのいづもはやくもちり

あまたちのいづもはやくもちり

あまたちのいづもはやくもちり

あまたちのいづもはやくもちり

あまたちのいづもはやくもちり

末の部

まろ

○我トイフニオナシ  
○又男子ノ通称

松原 人のかやうにあひまろ

金 人のかやうにあひまろ

同 人のかやうにあひまろ

夫 人のかやうにあひまろ

同 人のかやうにあひまろ

子 人のかやうにあひまろ

まろね

○帯紐トカズニネル獨  
麻ヲ云、マロフシト云  
フモ同シ

○疎ヲ訓ム俗ニ同シ



マボシイト云ニ近シ  
直高ニムカハレヌノ

○ 陸意ナリ晴ルマニ  
マニハ晴ルニ隨テ

○ 真顔ナリ正面ヲモ

○ 夢ノ如ク影ノ如キヲ  
云ヒ又幻術方士ヲモ  
云此前ノ歌ハ夢幻ノ

マボシイト云ニ近シ

直高ニムカハレヌノ

陸意ナリ晴ルマニ

マニハ晴ルニ隨テ

真顔ナリ正面ヲモ

夢ノ如ク影ノ如キヲ

意後ノ歌ハ方士ナリ

○ 少眠ナリ即蕩ケル義  
ナルベシト士清云ハ

○ 圓居ナリ今俗ニ云車  
坐ニ居ルノ權守部云  
古本今昔物語ニ纏居  
ト書タルヲ正字トスベシ

○ マギレナリ乱ルヲ  
云チノ部ノチノのま  
ハヒヲ見合ハスベシ

○ 絆シ去ルコトニ死ヲ

少眠ナリ即蕩ケル義

圓居ナリ今俗ニ云車

マギレナリ乱ルヲ

絆シ去ルコトニ死ヲ

身マカルト云行クノ物ハマカリケル又俗ニマカリ越スナドイヘルハコトバノイタク轉シタルニ

オダキ  
シバガキニ和名抄ニ  
籬和名未加岐一ニ曰  
末世業ヲ以テ造レト  
アリ

オダキ  
ヤブルノナリカノ部  
ノカノオダキニ詳  
カナリ

オダキ  
其時節ヨリ前ノ意  
未ダシキニ

オダキ  
其時モコナイノニモ

甲 *あまのこゝろをいかにせんか*

乙 *あまのこゝろをいかにせんか*

丙 *あまのこゝろをいかにせんか*

丁 *あまのこゝろをいかにせんか*

戊 *あまのこゝろをいかにせんか*

ハヤト云意朝マダキ  
ハ未晰ナリ

己 *あまのこゝろをいかにせんか*

オダキ  
マタクハ待ナリマツ  
ヲ延テマタクト云タクノ

庚 *あまのこゝろをいかにせんか*

オダキ  
全マツタクヲモヨメ

辛 *あまのこゝろをいかにせんか*

オダキ  
マレ稀ト云ニ同シト  
心得ズシクコトヲ  
ニルメタルノシキヨ

ラナドノラニ同シ

まぐ

○サキニマア

○サキニト云意ニモヨリ

○纏フ意

サキニマアノサキニト云意ニモヨリ

纏フ意

まづろくぬ

○万葉ニ不奉はト書テ

シカ讀マセタリコナ

まふご

○真子ノ意ナガラ万葉

ニ愛兒最愛子トミカ

ケレバ愛子ノトニイ

万葉ニ不奉はト書テシカ讀マセタリコナタハマトヒツカヌナリ服従セザル意

真子ノ意ナガラ万葉ニ愛兒最愛子トミカケレバ愛子ノトニイ

フナリ、催馬樂ニマナムスメトモアリ、

おしく

○枕ニスルヲ云

枕ニスルヲ云

おくりり

○袖ヲマクリコムナリ

ソテラカ、ゲテ手ヲ

アラハスニハアラズ

證歌ヲ見テ知ルヤシ

袖ヲマクリコムナリソテラカ、ゲテ手ヲアラハスニハアラズ證歌ヲ見テ知ルヤシ

まゆ

○兩下、和名菊夜、裏屋ノ

儀ナルヤシ、四阿、アツ

マセニ對シテ云、ア

マリハ軒ヲ云ヨシ、

兩下、和名菊夜、裏屋ノ儀ナルヤシ、四阿、アツマセニ對シテ云、アマリハ軒ヲ云ヨシ、

マニ、ノノ轉シタル  
ナリ前ノ手にくヲ見  
ヨ、

オゴ―  
狩スルニ柴ナド折羅  
テ身ヲカクス物ヲ云

オゴト  
突ニ

オゴトニ  
上ニオナジマコト、  
云ヘルハフルクニラ  
ソヘタルハ後

月、  
シ、  
日、

万、

廿、

廿、

廿、

廿、

廿、

オカタ  
秩原元來云、海人ノ汝

クムニ、タゴテフモノ  
モ既ニイハレシ之中世ノ説ハ受テカタシ、左右肩ノ説ニ授フベクカタムカシ。

オゴト  
五月左右近ノ馬場ニ  
騎射アルナリ、三日ハ

オゴト  
キツトタシカト云フ  
上俗ニモ是ガマサシ

ヲツレデヤナド云ハ  
リ。

オゴト  
キツトナリ、マハ答録サ  
イハヒト云フ。

ハ、  
イ、  
日、

日、

日、

日、

日、

日、

日、

ナギヤ  
○描金ヲ云俗ニ葺繪ト  
カクニ

マギヤ  
○今云マギレニ同シ乱  
ルノ意

マヤ根如く  
○人ニ恋ラルレバ眉ノ  
カユキト云諺アルナ  
リ万葉集ノ中ニヨミ  
歌多シ

マメ  
○神代記ニ誠忠ヲヨメ  
リ宗傳ニカタキト云  
又伊勢物語ノマメ男  
ハ好色人ヲタハムレテ  
云ハリシニ

今  
~~~~~

古  
~~~~~

万  
~~~~~

同  
~~~~~

古  
~~~~~

古  
~~~~~

テ云ハリシニ

オホドヤ

○マジキハ俗ニ云何々  
スマイナド云フマイ  
ニ當レリタユマジキ  
ハタエマイト思フノ  
意ガヘルマジケレハ  
カヘルマイト云フ  
ス

オシヤ

○イハンヤ  
○イキバイ  
○俗ニモマシナト云  
ス

オシ

○マビハ幣ナリ人ニオ  
クル品ナリ今マビナ  
ヒト云ニ同シ

オホドヤ  
~~~~~

オシヤ  
~~~~~

イハンヤ  
~~~~~

イキバイ  
~~~~~

俗ニモマシナト云  
~~~~~

マビハ幣ナリ人ニオ  
~~~~~

クル品ナリ今マビナ  
~~~~~

ヒト云ニ同シ

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

○ 柴垣くマガキニ用シ

於此  
柴垣のまがきを  
用ひて  
柴垣のまがきを  
用ひて  
柴垣のまがきを  
用ひて

### 冠辭の部

まのねふく

まのねふくのまのねふく  
まのねふくのまのねふく  
まのねふくのまのねふく  
まのねふくのまのねふく

○ 吉備ハヨキ鉄ヲ出ス所ナレバ冠ラセタリ。吉備ハ今ノ備前備中備後ナリ。

まくらら

まくららのまくらら  
まくららのまくらら  
まくららのまくらら  
まくららのまくらら

○ 久良我ハ地名。久良ノ反ハ評ナレバ約メテコガトモイヒシ故重ネタルナリ。

ますのい

ますのいのますのい  
ますのいのますのい  
ますのいのますのい  
ますのいのますのい

○ マスカ、ミハ真澄鏡

マスカのミハ真澄鏡  
マスカのミハ真澄鏡  
マスカのミハ真澄鏡  
マスカのミハ真澄鏡

ト云意ナリ。マスミノ  
カバミトモヨメリ。鏡  
ノ縁モナテルオモカ  
ゲニ冠ラヒタルナリ

山  
ト云意ナリ。マスミノ  
カバミトモヨメリ。鏡  
ノ縁モナテルオモカ  
ゲニ冠ラヒタルナリ

